

【参考】監督方針の構成（中小・地域金融機関）

1. 総論

1. 金融システムを取り巻く環境

- ・ 世界経済の下振れ懸念、金融資本市場の変動、デフレの影響等のリスク要因（特に、欧州財政問題の深刻化、米国経済の先行き不透明感）
- ・ 新成長戦略で求められる金融の役割（実体経済・企業のバックアップ役）

2. 監督当局の取組姿勢等

- ・ ベター・レギュレーションの一層の定着・進化を図ることを基本に、以下の監督姿勢で臨む
 - ① リスク感応度の高い行政（個々の金融機関や金融システムに蓄積するリスクをフォワード・ルッキングに特定・把握）
 - ② 国民の目線・利用者の立場に立った行政（顧客保護や利用者利便の一層の向上）
 - ③ 将来を見据えた行政（国際的議論の動向も十分把握、環境変化を展望）
 - ④ 金融機関の自主的な経営改善・経営判断に資する行政（金融機関との率直かつ深度ある対話等）

※ 検査部局、証券取引等監視委員会、日本銀行との一層緊密な連携、財務局と一体となった監督行政（データ分析や着眼材料の提供の充実など監督力を強化）

※ 金融機関の負担軽減に配慮した監督行政（報告等の年1回の定期的な点検等）

2. 監督重点分野

1. 円滑な金融仲介機能の発揮

(1) 地域密着型金融の更なる推進

- ① 借手企業の経営改善や地域経済の活性化への貢献と、自らの財務の健全性や収益性の向上の好循環を目指す
- ② 利用者の期待・ニーズに応えるための価値創造型の金融仲介機能の持続的な発揮

(2) 中小企業・個人向け融資（住宅ローン等）に対する金融仲介機能の発揮

- ① 中小企業向け融資・住宅ローンの円滑化（中小企業金融円滑化法への対応を含む）
- ② 消費者向け貸付けへの積極的な対応に関する実態把握

2. リスク管理と地域における金融システムの安定

○ マクロ・プルーデンスの視点を重視

（マクロ経済分析、市場モニタリング、個別金融機関監督の多様なツールを総合した手法を活用）

(1) リスク管理手法の改善

- ① ストレステストの質の向上
- ② 信用・市場リスク等への対応強化、経営改善努力先へのきめ細かな対応
- ③ リスク量制限手法の限界に対する対応

(2) 収益性・財務の健全性の向上

- ① 中長期的な視点に立って収益基盤の充実を図るための地域密着型金融に関する取組み
- ② 安定的な収益の確保等を含めた自己資本の充実（金融機能強化法の活用も選択肢）
- ③ 協同組織金融機関の基本的性格等を踏まえた金融仲介機能の最大限の発揮、協同組織中央機関による業務補完・支援機能の十分な発揮

3. 顧客保護と利用者利便の向上

(1) 情報セキュリティ管理の徹底等

- ・ 顧客情報の厳格な管理の徹底

(2) 顧客への説明態勢の充実等

- ・ 不招請勧誘規制への対応、視覚などの障がい者に対する対応

(3) 相談・苦情処理態勢の充実

- ・ 10月に導入される金融ADR制度への対応

(4) 金融機能の不正利用の防止

- ・ 振り込め詐欺の被害に対する迅速かつ的確な対応等